

実践！ コンサルティング 営業 第43回

1級ファイナンシャル・プランニング技能士・鬼塚信子

開業したばかりの ドクターへの保険提案

開業医が抱えるさまざまなリスクをコンサルティング

今年4月、医療法人制度が改正されましたが、既存の出資持分の定めのある社団医療法人については、「経過措置型医療法人」としてその存続が当分の間、認められることになりました。今回は、一人医師医療法人を第三者が承継して開業するケースを取り上げます。勤務医から開業医になったときの不安、リスクはいったいどんなものなのでしょうか。ドクター本人、家族、それぞれの立場での夢、不安を理解し、顧客の思いに寄り添った提案をしたいものです。損害賠償、借入金、休業、死亡、老後の生活資金、相続…など開業医が抱えるさまざまなリスクのうち、保険で対応できるものについて提案します。

顧客プロフィール

尾崎拓也 40歳
医科大学を卒業後、医局の関連病院に勤務。この数年は総合病院の循環器内科部長として最先端医療に従事する。多忙な日々を過ごしていたが、独立開業を決意し、この秋より「社団医療法人 さくらクリニック」（一般内科）を承継した。

尾崎美智子 37歳
12年前に拓也と結婚。専業主婦で、子育てに専念してきた。子どもは長男が小学校5年生（10歳）、二男が小学校2年生（7歳）の2人。ホームヘルパー2級の資格を持っており、介護に興味を持っている。



今月のFP

高山輝男◎42歳
ファイナンシャルプランナー。保険代理店（生保・損保）も兼ねている。尾崎医師とは子どもの父親参観で知り合った。両家の子どもの仲がいいことから、家族ぐるみの付き合いをしている。



独立開業へ向けて～クリニックの現状～

尾崎医師は、医科大学を卒業後、医局の関連病院を数カ所勤務し、この数年は総合病院の循環器内科部長の職にあった。常に呼び出しを受ける状況にあることに加えて、研修医教育に伴う指導医役、経営改善のための医事課長役と診療以外のことにも時間を取られ、多忙を極めていた。そんな中、自分の将来や家族のことを考えて、独立開業の決意を固めていた。

ある日のこと。前の職場へ手術応援に行った尾崎医師は、たまたま会った先輩から、「後継ぎを探しているクリニック」を紹介された。自分の第2の人生のスタートである独立開業において、他人のものを受け継いで始めることに多少の抵抗感があったが、全くのゼロからスタートするのと基盤があるのでは、当初の来患者数、開業にかかるコストともに各段に違うだろう。

尾崎医師は先輩に口添えしてもらい、「社団医療法人 さくらクリニック」を訪ねた。

本来なら、A院長（72歳）の子息であるBさんが後を継ぐ予定であったが、3年前、交通事故で急逝してしまったのだ。A院長はこれまで築いてきたクリニックに誇りと愛着を持っており、自分が引退してもクリニックは存続させて引き続き地域医療に役立てたいと願っていた。

「経営が悪くなって投げ出そうとしているわけではない。患者さんのことを考えての後継ぎ探しだ」

そう話すA院長の誠実な人柄に心を打たれ、尾崎医師はA院長の後継者となる道を選んだ。

* * *

まず、事業計画の立案、事業承継についての一連の事務手続きのサポート等を得るために尾崎医師は、医療コンサルティング会社と契約を交わした（コンサルティング料は300万円）。

さくらクリニックは、長年のA院長による堅実な経営により、現在のところ無借金経営である。また、A院長に退職金を支払っても運転資金見合いとして「さくらクリニック

名義」の銀行預金が2,000万円残っている。クリニックの将来の収益性について、医療コンサルタントと相談し、またA院長と協議した結果、尾崎医師は、「社団医療法人 さくらクリニック」の時価純資産価値として5,000万円をA院長に支払うこととした。

さらに、事業継承にあたって尾崎医師は、クリニックのより一層の拡大を目指し、以下の投資を行う計画を立てた。

新規医療機器導入	1,000万円
診療所改装（坪単価3万円×30坪）	900万円
電子カルテ導入	100万円
集患のための広告宣伝（広告、HP作成等）	200万円

なお、クリニックの建物はA院長の個人所有のため、賃貸料をA院長に月30万円支払うことで合意した。

必要資金

尾崎医師	5,000万円
さくらクリニック	2,500万円

これらの必要資金を、尾崎医師は以下の形で調達することとした。

<尾崎医師の資金調達>

自己資金	1,500万円
親からの援助	2,500万円（相続時精算課税制度を利用、非課税）
銀行	1,000万円（団体信用生命保険が付保）

<さくらクリニックの資金調達>

国民生活金融公庫	2,500万円
----------	---------

開業前の尾崎医師の心配

さくらクリニックの後を継ぐ決意をして約1年。A院長のはからいで、尾崎医師はしばらくA院長と一緒に働いて、患者さんやスタッフともなじみになった。

いよいよ尾崎医師が院長としてスタートする日も間近に迫ったある日、家族ぐるみで付き合いのあるFPの高山がお